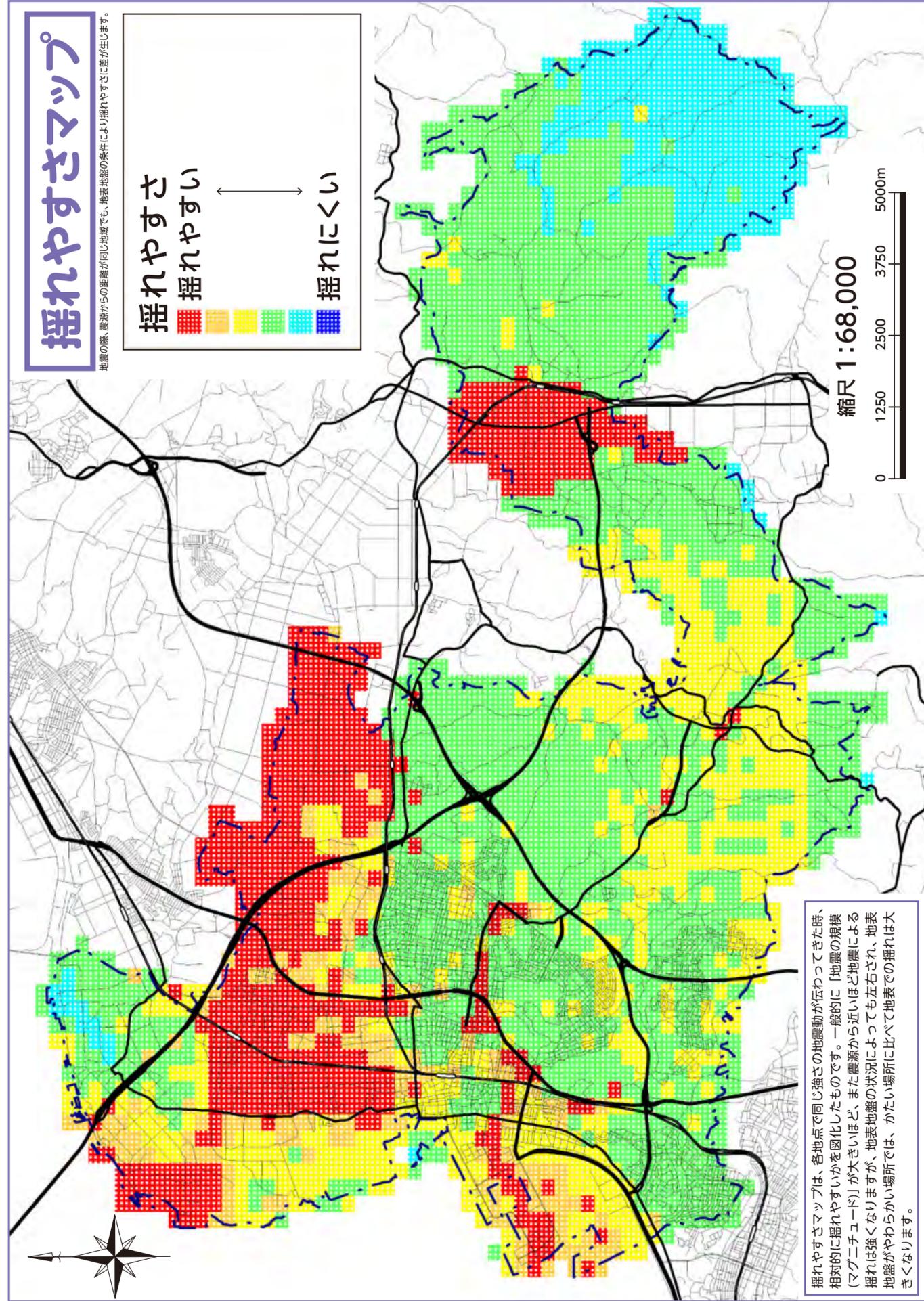
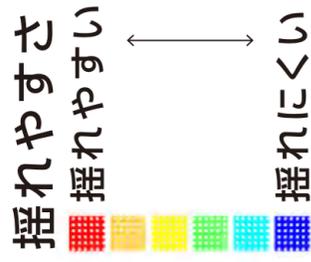


揺れやすさマップ

地震の際、震源からの距離が同じ地域でも、地表地盤の条件により揺れやすさには差が生じます。



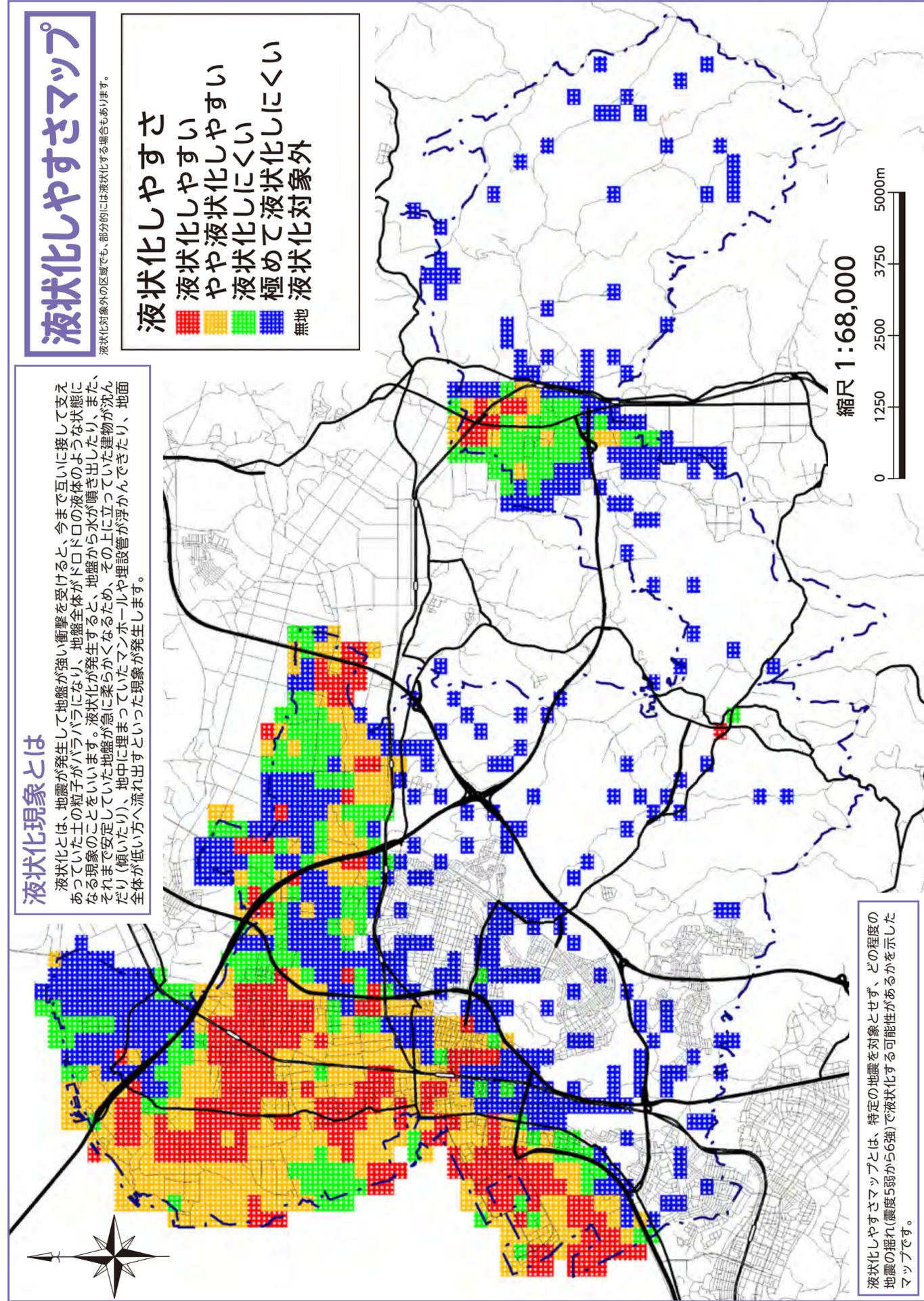
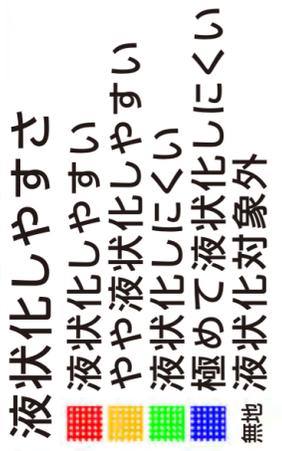
揺れやすさマップは、各地点で同じ強さの地震動が伝わってきた時、相対的に揺れやすいかを図化したものです。一般的に「地震の規模(マグニチュード)が大きいほど、また震源から近いほど地震による揺れは強くなりますが、地表地盤の状況によっても左右され、地表地盤がかわらかい場所では、かたい場所に比べて地表での揺れは大きく異なります。

液状化現象とは

液状化とは、地震が発生して地盤が強い衝撃を受けると、今まで互いに接して支えていた土の粒子がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象のことをいいます。液状化が発生すると、地盤から水が噴き出したり、また、それまで安定していた地盤が急に柔らかくなるため、その上に立っていた建物が沈んだり(傾いたり)、地中に埋まっていたマンホールや埋設管が浮かんできたり、地面全体が低い方へ流れ出すといった現象が発生します。

液状化しやすさマップ

液状化対象外の区域でも、部分的には液状化する場合があります。



液状化しやすさマップとは、特定の地震を対象とせず、どの程度の地震の揺れ(震度5弱から6強)で液状化する可能性があるかを示したマップです。